

第

1

講座

ベクトルと演算

◆ 基本の整理 ◆

〈ベクトルの演算〉 ▶ベクトルを含む式の計算は、整式の場合と同じように行う。

- 1 $2\vec{x} + \vec{y} = \vec{a}$, $\vec{x} - 3\vec{y} = \vec{b}$ を同時に満たす \vec{x} , \vec{y} を \vec{a} , \vec{b} で表せ。

〈ベクトルの和, 差〉 ▶ $\vec{AB} + \vec{BC} = \vec{AC}$, $\vec{BA} = -\vec{AB}$, $\vec{AA} = \vec{0}$, $\vec{OA} - \vec{OB} = \vec{BA}$

- 2 等式 $\vec{AB} + \vec{DC} = \vec{AC} + \vec{DB}$ が成り立つことを示せ。

〈ベクトルの分解〉 ▶ \vec{a} , \vec{b} が平行でないとき, 任意のベクトル \vec{c} は, $\vec{c} = m\vec{a} + n\vec{b}$ と表せる。

- 3 $\vec{a} = (1, 2)$, $\vec{b} = (2, -1)$, $\vec{c} = (8, 1)$ のとき, \vec{c} を \vec{a} , \vec{b} で表せ。

〈ベクトルの大きさ〉 ▶ $\vec{a} = (a_1, a_2)$ のとき, $|\vec{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2}$

- 4 $\vec{a} - \vec{b} = (-4, 1)$, $3\vec{a} + 2\vec{b} = (3, 8)$ のとき, \vec{a} と \vec{b} の大きさをそれぞれ求めよ。

〈ベクトルの内積〉 ▶ \vec{a} , \vec{b} のなす角を θ とするとき, $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$ ($0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$)

- 5 \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とするとき, 次の内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めよ。

(1) $|\vec{a}| = 3$, $|\vec{b}| = 2$, $\theta = 120^\circ$

(2) $|\vec{a}| = 2\sqrt{2}$, $|\vec{b}| = \sqrt{6}$, $\theta = 30^\circ$

〈ベクトルのなす角〉 ▶ $\cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \frac{a_1 b_1 + a_2 b_2}{\sqrt{a_1^2 + a_2^2} \sqrt{b_1^2 + b_2^2}}$ ただし, $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$

- 6 $\vec{a} = (1, -3)$, $\vec{b} = (-2, 1)$ のとき, \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ を求めよ。

〈ベクトルの垂直条件〉 ▶ $\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$ について, $\vec{a} \perp \vec{b} \iff \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$

- 7 $\vec{a} = (-4, 3)$ と垂直な単位ベクトルを求めよ。

〈内積の性質〉 ▶ $|\vec{a}|^2 = \vec{a} \cdot \vec{a}$, $|s\vec{a} + t\vec{b}|$ は 2 乗して, $\vec{a} \cdot \vec{b}$ と $|\vec{a}|$, $|\vec{b}|$ で表す。

- 8 $|\vec{a}| = 5$, $|\vec{b}| = 2$, $|\vec{a} + 2\vec{b}| = 3$ のとき, $\vec{a} \cdot \vec{b}$, $|\vec{a} - \vec{b}|$ の値を求めよ。

◇ 演 習 ◇

例題 ベクトルの大きさの最小値

- 9 $\vec{a}=(-1, 3)$, $\vec{b}=(1, 2)$ がある。 $\vec{p}=\vec{a}+t\vec{b}$ として、実数 t を変化させるとき、 \vec{p} の大きさの最小値を求めよ。

解法のポイント $|\vec{a}+t\vec{b}|^2$ を t の2次式と考えて、その最小値を求める。

- 10 **類題** $\vec{a}=(-2, 1)$, $\vec{b}=(1, -1)$, $\vec{p}=\vec{a}+t\vec{b}$ であるとき、次の問いに答えよ。

- (1) $|\vec{p}|$ が最小となるベクトル \vec{p}_0 を求めよ。
 (2) (1)で求めた \vec{p}_0 は、 \vec{b} と垂直であることを示せ。

- 11 平行四辺形 ABCD の対角線の交点を O とし、 $\vec{OA}=\vec{a}$, $\vec{OB}=\vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

- (1) \vec{OC} (2) \vec{AD}

- 12 正六角形 ABCDEF において、ベクトル $\vec{AB}=\vec{a}$, $\vec{AF}=\vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

- (1) \vec{AC} (2) \vec{BD} (3) \vec{EC}

- 13 次の問いに答えよ。

- (1) 平面上の3つのベクトルを $\vec{OA}=(4, x)$, $\vec{OB}=(1, 2)$, $\vec{OC}=(x, 6)$ とする。3点 A, B, C が一直線上にあるように x の値を定めよ。
 (2) 4点 A(-2, 1), B(x, 4), C(4, y), D(-1, 3) を頂点とする四角形 ABCD が平行四辺形であるように、 x, y の値を定めよ。
 (3) 2つのベクトル $\vec{a}=(1, 2)$, $\vec{b}=(k, 4)$ に対して、 $\vec{a}-\vec{b}$ と $2\vec{b}-\vec{a}$ が平行であるときの k の値を求めよ。また、 $3\vec{a}-\vec{b}$ と $\vec{a}+\vec{b}$ が直交するときの k の値を求めよ。

- 14 **発展** 2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} について、 $|\vec{a}+\vec{b}|=4$, $|\vec{a}-\vec{b}|=2$ であるとき、次の問いに答えよ。

- (1) 内積 $\vec{a}\cdot\vec{b}$ を求めよ。 (2) $|2\vec{a}-3\vec{b}|^2+|3\vec{a}-2\vec{b}|^2$ を求めよ。

ヒント $|\vec{a}+\vec{b}|$, $|\vec{a}-\vec{b}|$ のそれぞれ2乗したものから、 $\vec{a}\cdot\vec{b}$, $|\vec{a}|^2+|\vec{b}|^2$ の値を求める。

例題 三角形の面積

15 $\triangle ABC$ において、 $\overrightarrow{AB}=(3, 2)$, $\overrightarrow{AC}=(2, 1)$, $\angle BAC=\theta$ とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) $\cos \theta$ の値を求めよ。 (2) $\triangle ABC$ の面積を求めよ。

解法のポイント $\cos \theta = \frac{\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}}{|\overrightarrow{AB}| |\overrightarrow{AC}|}$ より求める。また、面積は、 $S = \frac{1}{2} |\overrightarrow{AB}| |\overrightarrow{AC}| \sin \theta$ から求められる。

16 類題 $\triangle OAB$ において、 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$, $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$, $|\vec{a}|=5$, $|\vec{b}|=6$, $|\vec{a}-\vec{b}|=7$, $\angle AOB=\theta$ とするとき、次の問いに答えよ。

- (1) $\cos \theta$ の値を求めよ。 (2) $\triangle OAB$ の面積を求めよ。

17 上底 $AD=4$, 下底 $BC=6$, 辺 $AB=2$, $\angle B=60^\circ$ の台形 $ABCD$ がある。 \overrightarrow{BC} の向きの単位ベクトルを \vec{u} , \overrightarrow{BA} の向きの単位ベクトルを \vec{v} とする。このとき、次のベクトルを \vec{u} , \vec{v} を用いて表せ。

- (1) \overrightarrow{AC} (2) \overrightarrow{AD} (3) \overrightarrow{BD} (4) \overrightarrow{CD}

18 ベクトル \vec{a} を直線 l に正射影してできるベクトルを \vec{a}' とする。 l に平行なベクトルを \vec{b} とするとき、次の問いに答えよ。

- (1) $\vec{a}' = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{b}|^2} \vec{b}$ であることを示せ。
 (2) $\vec{a}=(5, -10)$, $\vec{b}=(4, -3)$ のとき、 \vec{a}' を求めよ。

19 ベクトル \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} が $\vec{a}+\vec{b}+\vec{c}=\vec{0}$, $\vec{a} \cdot \vec{b}=\vec{b} \cdot \vec{c}=\vec{c} \cdot \vec{a}=-1$ を満たすとき、 \vec{a} と \vec{b} のなす角を求めよ。

20 発展 正三角形 ABC の辺 AB , BC 上に点 P , Q を $AP:PB=1:1$, $BQ:QC=2:1$ となるようにとる。点 A から直線 PQ に垂線 AH を引く。 $\overrightarrow{CA}=\vec{a}$, $\overrightarrow{CB}=\vec{b}$ とするとき、 \overrightarrow{AH} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

ヒント \overrightarrow{PA} の直線 PQ への正射影ベクトルを考える。

第

2

講座

ベクトルの応用

◆ 基本の整理 ◆

〈位置ベクトル〉 ▶ 始点 O を定めると、任意の点 P の位置ベクトルは \overrightarrow{OP} で表される。

- 1 線分 AC の中点を B 、線分 AB の中点を P 、線分 BC の中点を Q とする。点 A, B の位置ベクトルを \vec{a}, \vec{b} として、点 P, Q の位置ベクトル \vec{p}, \vec{q} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。

〈分点の位置ベクトル〉 ▶ 線分 AB を $m:n$ の比に分ける点 P の位置ベクトルは、 $\vec{p} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n}$

- 2 2点 $A(\vec{a}), B(\vec{b})$ に対して、線分 AB を $3:5$ の比に外分する点 P の位置ベクトル \vec{p} を求めよ。

〈図形への応用〉 ▶ $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b} \iff \overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a}$

- 3 $\triangle ABC$ と点 P がある。点 P が等式 $\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} + \overrightarrow{PC} = \overrightarrow{AB}$ を満たすとき、 P はどんな位置にあるか。

〈ベクトル方程式〉 ▶ 点 $A(\vec{a})$ を通り、ベクトル \vec{d} に平行な直線のベクトル方程式は、 $\vec{p} = \vec{a} + t\vec{d}$

- 4 点 $(1, -5)$ を通り、方向ベクトルが $\vec{d} = (2, 3)$ である直線の方程式を、媒介変数 t を用いて表せ。

〈法線ベクトル〉 ▶ $\vec{n} = (a, b)$ は、直線 $ax + by + c = 0$ の法線ベクトルである。

- 5 直線 $3x + 4y + 1 = 0$ に垂直な単位ベクトルを求めよ。

〈点と直線との距離〉 ▶ 点 (x_1, y_1) と直線 $ax + by + c = 0$ との距離は、 $\frac{|ax_1 + by_1 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}}$

- 6 点 $A(5, 1)$ を中心として、直線 $4x - 3y = 7$ に接する円の方程式を求めよ。

〈円のベクトル方程式〉 ▶ 中心 $C(\vec{c})$ 、半径 r の円のベクトル方程式は、 $|\vec{p} - \vec{c}| = r$

- 7 2定點 $A(\vec{a}), B(\vec{b})$ を直径の両端とする円 C のベクトル方程式を求めよ。

例題 交点の位置ベクトル

14 $\triangle OAB$ で辺 OA を $1:3$ の比に内分する点を M , 辺 OB を $5:2$ の比に内分する点を N とし, AN と BM の交点を P とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とするとき, 次の問いに答えよ。

- (1) $AP:PN = s:(1-s)$ とおき, \overrightarrow{OP} を \vec{a} , \vec{b} , s で表せ。
- (2) $BP:PM = t:(1-t)$ とおき, \overrightarrow{OP} を \vec{a} , \vec{b} , t で表せ。
- (3) s, t の値を求め, \overrightarrow{OP} を \vec{a} , \vec{b} で表せ。

解法のポイント $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} が平行でないとする。このとき, 任意のベクトル \vec{p} は \vec{a}, \vec{b} を用いてただ1通りに表される。このことを利用して, 交点の位置ベクトルを2通りに表し, 係数を比較する。

15 類題 $\triangle OAB$ において, OA を $1:2$ の比に内分する点を M , OB を $3:2$ の比に内分する点を N とし, AN と BM の交点を P とするとき, \overrightarrow{OP} を $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}$ で表せ。



16 平面上に一直線上にない点 O, A, B がある。線分 AB を $1:2$ の比に内分する点を M , 線分 OA を $2:3$ の比に内分する点を N とし, 直線 BN と直線 OM の交点を P とするとき, \overrightarrow{OP} を $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}$ で表せ。

17 4点 $O(0, 0), A(1, 3), B(4, 2), C(2, 5)$ とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ で表すとき, 次の問いに答えよ。

- (1) \overrightarrow{OC} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。
- (2) 直線 AB と直線 OC との交点を P とするとき, \overrightarrow{OP} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。
- (3) 点 Q が直線 AB 上の点で, \overrightarrow{QC} が \overrightarrow{OB} に平行であるとき, \overrightarrow{OQ} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

18 2点 $A(4, 2), B(6, 0)$ を通る直線へ原点 O から下ろした垂線の足を H とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ と表すとき, \overrightarrow{OH} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

19 発展 xy 平面上で, 円 C の表す方程式を $x^2 + y^2 - 8x - 4y = a^2 - 20$ ($a > 0$) とする。原点を O とし, 円 C 上に点 $A(4, 2-a)$ をとる。また, 平面上の点 P に対して, $\overrightarrow{OQ} = 2\overrightarrow{OP} + 3\overrightarrow{OA}$ となる点 Q をとる。点 P が円 C 上にあるときの点 Q の位置を求めよ。

ヒント 円 C の方程式から, 中心 $C(4, 2)$, 半径 a である。 $\overrightarrow{CP} = (a\cos\theta, a\sin\theta)$ において $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OC} + \overrightarrow{CP}$ として考えればよい。

解答

《selectⅢ 数学C》

第1講座 ベクトルと演算

[p.2]

1 $2\vec{x} + \vec{y} = \vec{a}$ ……① $\vec{x} - 3\vec{y} = \vec{b}$ ……②

①×3+② $7\vec{x} = 3\vec{a} + \vec{b}$

①-②×2 $7\vec{y} = \vec{a} - 2\vec{b}$

よって、 $\vec{x} = \frac{3}{7}\vec{a} + \frac{1}{7}\vec{b}$ 、 $\vec{y} = \frac{1}{7}\vec{a} - \frac{2}{7}\vec{b}$

2 $\overline{AB} + \overline{DC} - \overline{AC} - \overline{DB} = \overline{AB} + \overline{DC} + \overline{CA} + \overline{BD}$
 $= (\overline{AB} + \overline{BD}) + (\overline{DC} + \overline{CA}) = \overline{AD} + \overline{DA} = \overline{AA} = \vec{0}$

よって、 $\overline{AB} + \overline{DC} = \overline{AC} + \overline{DB}$

3 $\vec{c} = s\vec{a} + t\vec{b}$ とおくと

$(8, 1) = s(1, 2) + t(2, -1) = (s+2t, 2s-t)$

ゆえに、 $s+2t=8$ 、 $2s-t=1$ これを解いて、

$s=2$ 、 $t=3$ よって、 $\vec{c} = 2\vec{a} + 3\vec{b}$

4 $\vec{a} - \vec{b} = (-4, 1)$ ……①

$3\vec{a} + 2\vec{b} = (3, 8)$ ……②

①×2+② $5\vec{a} = (-5, 10)$

①×3-② $-5\vec{b} = (-15, -5)$

ゆえに、 $\vec{a} = (-1, 2)$ 、 $\vec{b} = (3, 1)$

よって、 $|\vec{a}| = \sqrt{(-1)^2 + 2^2} = \sqrt{5}$

$|\vec{b}| = \sqrt{3^2 + 1^2} = \sqrt{10}$

5 (1) $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos 120^\circ$

$= 3 \cdot 2 \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) = -3$

(2) $\vec{a} \cdot \vec{b} = 2\sqrt{2} \cdot \sqrt{6} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = 6$

6 $\cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \frac{1 \cdot (-2) + (-3) \cdot 1}{\sqrt{1^2 + (-3)^2} \sqrt{(-2)^2 + 1^2}}$

$= -\frac{1}{\sqrt{2}}$ よって、 $\theta = 135^\circ$

7 求める単位ベクトルを $\vec{e} = (x, y)$ とする。

$\vec{a} \perp \vec{e}$ より、 $\vec{a} \cdot \vec{e} = 0$ また、 $|\vec{e}| = 1$ から

$-4x + 3y = 0$ ……① $x^2 + y^2 = 1$ ……②

①、②を解いて求めるベクトルは

$\left(\frac{3}{5}, \frac{4}{5}\right)$ 、 $\left(-\frac{3}{5}, -\frac{4}{5}\right)$

8 $|\vec{a} + 2\vec{b}|^2 = (\vec{a} + 2\vec{b}) \cdot (\vec{a} + 2\vec{b})$

$= |\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2 = 41 + 4\vec{a} \cdot \vec{b}$

$4\vec{a} \cdot \vec{b} + 41 = 9$ より、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = -8$

また、 $|\vec{a} - \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2$

$= 29 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} = 45$ よって、 $|\vec{a} - \vec{b}| = 3\sqrt{5}$

[p.3]

9 $\vec{p} = (-1, 3) + t(1, 2) = (-1+t, 3+2t)$

$|\vec{p}|^2 = (-1+t)^2 + (3+2t)^2 = 5(t+1)^2 + 5$

ゆえに、 $|\vec{p}|^2$ は $t = -1$ のとき最小値 5

よって、 $|\vec{p}|$ の最小値は $\sqrt{5}$ ($t = -1$ のとき)

10 (1) $\vec{p} = (-2+t, 1-t)$

$|\vec{p}|^2 = (-2+t)^2 + (1-t)^2 = 2\left(t - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{1}{2}$

ゆえに、 $|\vec{p}|$ は $t = \frac{3}{2}$ のとき最小となる。

よって、 $\vec{p}_0 = \left(-\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}\right)$

(2) $\vec{p}_0 \cdot \vec{b} = \left(-\frac{1}{2}\right) \cdot 1 + \left(-\frac{1}{2}\right) \cdot (-1) = 0$

よって、 $\vec{p}_0 \perp \vec{b}$

11 (1) $\overline{OC} = -\vec{a}$

(2) $\overline{AD} = \overline{BC} = \overline{OC} - \overline{OB} = -\vec{a} - \vec{b}$

12 対角線の交点を O とすると、

$\overline{AO} = \overline{AB} + \overline{AF} = \vec{a} + \vec{b}$

(1) $\overline{AC} = \overline{AB} + \overline{BC} = \overline{AB} + \overline{AO}$

$= \vec{a} + (\vec{a} + \vec{b}) = 2\vec{a} + \vec{b}$

(2) $\overline{BD} = \overline{AD} - \overline{AB} = 2\overline{AO} - \overline{AB}$

$= 2(\vec{a} + \vec{b}) - \vec{a} = \vec{a} + 2\vec{b}$

(3) $\overline{EC} = \overline{FB} = \overline{AB} - \overline{AF} = \vec{a} - \vec{b}$

13 (1) 3点 A, B, C が一直線上にあるから

$k\overline{AB} = \overline{AC}$ となる実数 k が存在する。

$\overline{AB} = (-3, 2-x)$ 、 $\overline{AC} = (x-4, 6-x)$

から、 $-3k = x-4$ 、 $k(2-x) = 6-x$

これを解いて、 $x = -2$ 、 5

(2) 四角形 ABCD が平行四辺形であるから

$\overline{AD} \parallel \overline{BC}$ かつ $\overline{AD} = \overline{BC}$ より、 $\overline{AD} = \overline{BC}$

$(1, 2) = (4-x, y-4)$

$4-x=1$ 、 $y-4=2$ から、 $x=3$ 、 $y=6$

(3) $(\vec{a} - \vec{b}) \parallel (2\vec{b} - \vec{a})$ のとき

$t(\vec{a} - \vec{b}) = 2\vec{b} - \vec{a}$ となる実数 t が存在するから、

$t(1-k, -2) = (2k-1, 6)$

$t(1-k) = 2k-1$ 、 $-2t = 6$ より

$t = -3$ よって、 $k = 2$

また、 $(3\vec{a} - \vec{b}) \perp (\vec{a} + \vec{b})$ のとき

$(3\vec{a} - \vec{b}) \cdot (\vec{a} + \vec{b}) = 0$ より

$(3-k)(1+k) + 2 \cdot 6 = 0$ 、 $k^2 - 2k - 15 = 0$

これを解いて、 $k = -3$ 、 5

14 (1) $|\vec{a} + \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 16$

$|\vec{a} - \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 4$

辺々引いて、 $4\vec{a} \cdot \vec{b} = 12$ より、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 3$

(2) (1)の2式を辺々加えて、 $2(|\vec{a}|^2 + 2|\vec{b}|^2) = 20$

$|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 = 10$ より

$|2\vec{a} - 3\vec{b}|^2 + |3\vec{a} - 2\vec{b}|^2$

$= 13(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2) - 24\vec{a} \cdot \vec{b}$

$= 13 \cdot 10 - 24 \times 3 = 58$

[p.4]

15 (1) $\cos \theta = \frac{\overline{AB} \cdot \overline{AC}}{|\overline{AB}| |\overline{AC}|} = \frac{3 \cdot 2 + 2 \cdot 1}{\sqrt{3^2 + 2^2} \sqrt{2^2 + 1^2}}$

$= \frac{8}{\sqrt{65}}$

(2) $0^\circ < \theta < 180^\circ$ より, $\sin \theta > 0$

$$\sin \theta = \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = \sqrt{1 - \left(\frac{8}{\sqrt{65}}\right)^2} = \frac{1}{\sqrt{65}}$$

$$\begin{aligned} \triangle ABC &= \frac{1}{2} |\overrightarrow{AB}| |\overrightarrow{AC}| \sin \theta \\ &= \frac{1}{2} \cdot \sqrt{65} \cdot \frac{1}{\sqrt{65}} = \frac{1}{2} \end{aligned}$$

16 (1) $|\overrightarrow{a} - \overrightarrow{b}|^2 = |\overrightarrow{a}|^2 - 2\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} + |\overrightarrow{b}|^2 = 49$ より
 $\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} = 6$ よって, $\cos \theta = \frac{\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b}}{|\overrightarrow{a}| |\overrightarrow{b}|} = \frac{1}{5}$

(2) $\triangle OAB = \frac{1}{2} \cdot 5 \cdot 6 \cdot \sqrt{1 - \left(\frac{1}{5}\right)^2} = 6\sqrt{6}$

17 (1) $\overrightarrow{AC} = \overrightarrow{BC} - \overrightarrow{BA} = 6\overrightarrow{u} - 2\overrightarrow{v}$

(2) $\overrightarrow{AD} = \frac{2}{3}\overrightarrow{BC} = 4\overrightarrow{u}$

(3) $\overrightarrow{BD} = \overrightarrow{AD} - \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{AD} + \overrightarrow{BA} = 4\overrightarrow{u} + 2\overrightarrow{v}$

(4) $\overrightarrow{CD} = \overrightarrow{BD} - \overrightarrow{BC} = -2\overrightarrow{u} + 2\overrightarrow{v}$

18 (1) \overrightarrow{a} と \overrightarrow{b} のなす角を θ とすると
 $|\overrightarrow{a}'| = |\overrightarrow{a}| \cos \theta$, $\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} = |\overrightarrow{a}| |\overrightarrow{b}| \cos \theta$ より

$$|\overrightarrow{a}'| = \frac{\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b}}{|\overrightarrow{b}|}, \quad \overrightarrow{a}' = |\overrightarrow{a}'| \frac{\overrightarrow{b}}{|\overrightarrow{b}|} \text{ から}$$

$$\overrightarrow{a}' = \frac{\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b}}{|\overrightarrow{b}|^2} \overrightarrow{b}$$

(2) $\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} = 5 \cdot 4 + (-10) \cdot (-3) = 50$

$$\overrightarrow{a}' = \frac{50}{4^2 + (-3)^2} \overrightarrow{b} = 2\overrightarrow{b} = (8, -6)$$

19 $\overrightarrow{c} = -\overrightarrow{a} - \overrightarrow{b}$ より

$$\overrightarrow{b} \cdot \overrightarrow{c} = \overrightarrow{b} \cdot (-\overrightarrow{a} - \overrightarrow{b}) = -\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} - |\overrightarrow{b}|^2 = -1$$

$$\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{c} = \overrightarrow{a} \cdot (-\overrightarrow{a} - \overrightarrow{b}) = -|\overrightarrow{a}|^2 - \overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} = -1$$

$$\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} = -1 \text{ より, } |\overrightarrow{a}| = |\overrightarrow{b}| = \sqrt{2}$$

\overrightarrow{a} と \overrightarrow{b} のなす角を θ とすると

$$\cos \theta = \frac{\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b}}{|\overrightarrow{a}| |\overrightarrow{b}|} = \frac{-1}{2} \text{ よって, } \theta = 120^\circ$$

20 $\overrightarrow{QP} = \frac{2}{3}\overrightarrow{b} + \frac{1}{2}(\overrightarrow{a} - \overrightarrow{b}) = \frac{3\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}}{6}$

\overrightarrow{PH} は \overrightarrow{PA} の $3\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}$ の上への正射影ベクトル
 と考えられるから,

$$\overrightarrow{PH} = \frac{(3\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}) \cdot \overrightarrow{PA}}{|3\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}|^2} (3\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}), \quad |\overrightarrow{a}|^2 = |\overrightarrow{b}|^2,$$

$$\overrightarrow{a} \cdot \overrightarrow{b} = |\overrightarrow{a}| |\overrightarrow{b}| \cos 60^\circ = \frac{1}{2} |\overrightarrow{a}|^2 \text{ より}$$

$$\overrightarrow{PH} = \frac{1}{26} (3\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}) \text{ となるから}$$

$$\overrightarrow{AH} = \frac{1}{26} (3\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}) - \frac{\overrightarrow{a} - \overrightarrow{b}}{2} = -\frac{5}{13}\overrightarrow{a} + \frac{7}{13}\overrightarrow{b}$$

第2講座 ベクトルの応用

[p.5]

1 $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{a} + \frac{1}{2}(\overrightarrow{b} - \overrightarrow{a})$,

$$\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AQ} = \overrightarrow{a} + \frac{3}{2}(\overrightarrow{b} - \overrightarrow{a}) \text{ より}$$

$$\overrightarrow{p} = \frac{\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}}{2}, \quad \overrightarrow{q} = -\frac{1}{2}\overrightarrow{a} + \frac{3}{2}\overrightarrow{b}$$

2 $\overrightarrow{p} = \frac{-5\overrightarrow{a} + 3\overrightarrow{b}}{3-5} = \frac{5}{2}\overrightarrow{a} - \frac{3}{2}\overrightarrow{b}$

3 点 A, B, C, P の位置ベクトルをそれぞれ \overrightarrow{a} , \overrightarrow{b} , \overrightarrow{c} , \overrightarrow{p} とする。等式から
 $(\overrightarrow{a} - \overrightarrow{p}) + (\overrightarrow{b} - \overrightarrow{p}) + (\overrightarrow{c} - \overrightarrow{p}) = \overrightarrow{b} - \overrightarrow{a}$

$$3\overrightarrow{p} = 2\overrightarrow{a} + \overrightarrow{c} \text{ より, } \overrightarrow{p} = \frac{2\overrightarrow{a} + \overrightarrow{c}}{3}$$

よって, 点 P は線分 AC を 1:2 の比に内分する点

4 $\overrightarrow{p} = (1, -5) + t(2, 3) = (1+2t, -5+3t)$

よって, 媒介変数を用いた表示は $\begin{cases} x = 1+2t \\ y = -5+3t \end{cases}$

5 $\overrightarrow{n} = (3, 4)$ は直線に垂直なベクトルで

$|\overrightarrow{n}| = \sqrt{3^2 + 4^2} = 5$ よって, \overrightarrow{n} と平行な単位ベクトルは, $\pm \frac{\overrightarrow{n}}{|\overrightarrow{n}|} = \pm \frac{1}{5}(3, 4)$ (複号同順)

すなわち, $\left(\frac{3}{5}, \frac{4}{5}\right), \left(-\frac{3}{5}, -\frac{4}{5}\right)$

6 点 A と直線との距離が半径であるから

$$\frac{|4 \cdot 5 - 3 \cdot 1 - 7|}{\sqrt{4^2 + (-3)^2}} = 2 \text{ より, 求める円の方程式は}$$

$$(x-5)^2 + (y-1)^2 = 4$$

7 弧 AB に対する円周角は 90° であるから

$$(\overrightarrow{p} - \overrightarrow{a}) \perp (\overrightarrow{p} - \overrightarrow{b})$$

$$\text{よって, } (\overrightarrow{p} - \overrightarrow{a}) \cdot (\overrightarrow{p} - \overrightarrow{b}) = 0$$

[p.6]

8 (1) $\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{AQ} - \overrightarrow{AP} = \frac{4\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}}{5} - \frac{3}{4}\overrightarrow{a}$

$$= \frac{1}{20}\overrightarrow{a} + \frac{1}{5}\overrightarrow{b}$$

$$\overrightarrow{PC} = \overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AP} = \overrightarrow{a} + \overrightarrow{b} - \frac{3}{4}\overrightarrow{a} = \frac{1}{4}\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}$$

(2) (1)から, $5\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{PC}$

よって, 3点 P, Q, C は一直線上にある。

9 $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{a}$, $\overrightarrow{AC} = \overrightarrow{b}$ とすると

$$\overrightarrow{AP} = \frac{4}{7}\overrightarrow{a}, \quad \overrightarrow{AQ} = \frac{4}{5}\overrightarrow{b}, \quad \overrightarrow{AG} = \frac{\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b}}{3} \text{ より}$$

$$\overrightarrow{PG} = \overrightarrow{AG} - \overrightarrow{AP} = -\frac{5}{21}\overrightarrow{a} + \frac{1}{3}\overrightarrow{b} \dots\dots \textcircled{1}$$

$$\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{AQ} - \overrightarrow{AP} = -\frac{4}{7}\overrightarrow{a} + \frac{4}{5}\overrightarrow{b} \dots\dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ から } \frac{12}{5}\overrightarrow{PG} = \overrightarrow{PQ}$$

よって, 3点 P, G, Q は一直線上にある。

[注] 点 A, B, C の位置ベクトルで考えてもよい。

10 (1) $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{a}$, $\overrightarrow{AC} = \overrightarrow{b}$, $\overrightarrow{AP} = \overrightarrow{p}$ とおく。

$$-5\overrightarrow{p} + 3(\overrightarrow{a} - \overrightarrow{p}) + 4(\overrightarrow{b} - \overrightarrow{p}) = \overrightarrow{0} \text{ より}$$

$$\overrightarrow{p} = \frac{3\overrightarrow{a} + 4\overrightarrow{b}}{12} = \frac{7}{12} \cdot \frac{3\overrightarrow{a} + 4\overrightarrow{b}}{7}$$

点 P は AE を 7:5 に内分する点であり,

点 E は辺 BC を 4:3 に内分する点である。

よって, $BE:EC = 4:3$

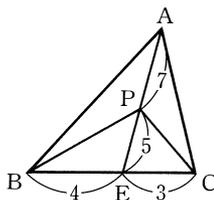
$$(2) \triangle BCP = \frac{7}{3} \triangle PCE$$

$$\triangle CAP = \frac{7}{5} \triangle PCE$$

$$\triangle ABP$$

$$= \frac{4}{3} \times \frac{7}{5} \triangle PCE$$

$$\text{より, } S_1 : S_2 : S_3 = \frac{7}{3} : \frac{7}{5} : \frac{28}{15} = 5 : 3 : 4$$



- 11 (1) l, m の法線ベクトル \vec{n}_1, \vec{n}_2 のなす角 α について, $\vec{n}_1 = (\sqrt{3}, 1), \vec{n}_2 = (1, \sqrt{3})$

$$\cos \alpha = \frac{\sqrt{3} \cdot 1 + 1 \cdot \sqrt{3}}{\sqrt{(\sqrt{3})^2 + 1^2} \sqrt{1^2 + (\sqrt{3})^2}} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

この α は, l, m のなす角 θ に等しい。

よって, 求める角は, 30°

- (2) (1) と同様に, $\vec{n}_1 = (1, 2), \vec{n}_2 = (1, -3)$

$$\cos \alpha = \frac{1 \cdot 1 + 2 \cdot (-3)}{\sqrt{1^2 + 2^2} \sqrt{1^2 + (-3)^2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}}$$

$\alpha = 135^\circ$ より, 求める角 θ は, $180^\circ - 135^\circ = 45^\circ$

- 12 (1) $s+t=2$ より, $\frac{s}{2} + \frac{t}{2} = 1$

$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} = \frac{s}{2}(2\vec{OA}) + \frac{t}{2}(2\vec{OB})$$

$2\vec{OA} = \vec{OA}', 2\vec{OB} = \vec{OB}'$ とすれば

$$\vec{OP} = \frac{s}{2}\vec{OA}' + \frac{t}{2}\vec{OB}', \frac{s}{2} + \frac{t}{2} = 1$$

すなわち, 点 P は, $2\vec{OA} = \vec{OA}', 2\vec{OB} = \vec{OB}'$ となる点 A', B' を結ぶ直線 $A'B'$ 上にある。

- (2) $2s+3t=6$ より, $\frac{s}{3} + \frac{t}{2} = 1$

$$\vec{OP} = \frac{s}{3}(3\vec{OA}) + \frac{t}{2}(2\vec{OB}), \frac{s}{3} + \frac{t}{2} = 1$$

$3\vec{OA} = \vec{OA}', 2\vec{OB} = \vec{OB}'$ とすれば

$$\vec{OP} = \frac{s}{3}\vec{OA}' + \frac{t}{2}\vec{OB}', \frac{s}{3} + \frac{t}{2} = 1$$

$$\frac{s}{3} \geq 0, \frac{t}{2} \geq 0$$

すなわち, 点 P は, $3\vec{OA} = \vec{OA}', 2\vec{OB} = \vec{OB}'$ となる点 A', B' を結ぶ線分 $A'B'$ 上にある。

- 13 (1) $-1 \leq \cos \alpha \leq 1$ より, $\vec{OA} \cos \alpha$ は $A'(-1, -3)$ とすると, 線分 AA' 上を動く。また, $0 \leq \sin \beta \leq 1$ より, P の存在範囲は次の図の斜線部 (境界線を含む) になる。

- (2) 点 Q の座標を (x, y) とすると

$$(x, y) = (\cos \alpha + 3\sin \alpha, 3\cos \alpha - \sin \alpha)$$

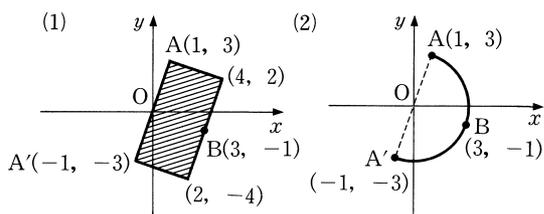
$$\text{より, } \cos \alpha = \frac{x+3y}{10}, \sin \alpha = \frac{3x-y}{10}$$

$$\left(\frac{x+3y}{10}\right)^2 + \left(\frac{3x-y}{10}\right)^2 = 1 \text{ から}$$

$$x^2 + y^2 = 10 \text{ ただし, } -1 \leq \cos \alpha \leq 1,$$

$0 \leq \sin \alpha \leq 1$ より, 円 $x^2 + y^2 = 10$ の周上の点で,

(1) の領域内にあるから, 次の図ようになる。



[p.7]

14 (1) $\vec{OP} = \frac{(1-s)\vec{OA} + s\vec{ON}}{s+(1-s)}$

$$= (1-s)\vec{OA} + s\vec{ON} = (1-s)\vec{a} + \frac{5}{7}s\vec{b}$$

(2) $\vec{OP} = \frac{(1-t)\vec{OB} + t\vec{OM}}{t+(1-t)} = \frac{1}{4}t\vec{a} + (1-t)\vec{b}$

(3) $(1-s)\vec{a} + \frac{5}{7}s\vec{b} = \frac{1}{4}t\vec{a} + (1-t)\vec{b}$

\vec{a}, \vec{b} は $\vec{0}$ でなく平行でないから

$$1-s = \frac{1}{4}t, \frac{5}{7}s = 1-t \text{ を解いて}$$

$$s = \frac{21}{23}, t = \frac{8}{23} \text{ より, } \vec{OP} = \frac{2}{23}\vec{a} + \frac{15}{23}\vec{b}$$

15 $\vec{OP} = \frac{1}{6}\vec{OA} + \frac{1}{2}\vec{OB}$

16 $AM:MB=1:2$ より,

$$\vec{OM} = \frac{2\vec{OA} + \vec{OB}}{3} = \frac{2}{3}\vec{OA} + \frac{1}{3}\vec{OB}$$

$\vec{OP} = k\vec{OM}$ とおくと

$$\vec{OP} = \frac{2}{3}k\vec{OA} + \frac{1}{3}k\vec{OB} = \frac{5}{3}k \cdot \frac{2}{5}\vec{OA} + \frac{1}{3}k\vec{OB}$$

点 P は直線 BN 上にあるから, $\frac{5}{3}k + \frac{1}{3}k = 1$ より,

$$k = \frac{1}{2} \text{ より, } \vec{OP} = \frac{1}{3}\vec{OA} + \frac{1}{6}\vec{OB}$$

17 (1) $\vec{OC} = p\vec{a} + q\vec{b}$ とすると

$$2 = p + 4q, 5 = 3p + 2q \text{ を解いて}$$

$$p = \frac{8}{5}, q = \frac{1}{10} \text{ より, } \vec{OC} = \frac{8}{5}\vec{a} + \frac{1}{10}\vec{b}$$

(2) $\vec{OP} = k\vec{OC}$

$$= \frac{8k}{5}\vec{a} + \frac{k}{10}\vec{b}$$

点 P は直線 AB 上にあるから,

$$\frac{8}{5}k + \frac{k}{10} = 1$$

$$\text{よって, } k = \frac{10}{17} \text{ より,}$$

$$\vec{OP} = \frac{16}{17}\vec{a} + \frac{1}{17}\vec{b}$$

(3) $\vec{OQ} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b}$ とおくと

$$\vec{OQ} = (1+3t, 3-t) \text{ より}$$

$$\vec{QC} = (-3t+1, t+2)$$

$$\vec{QC} \parallel \vec{OB} \text{ より, } -3t+1 = 2(t+2)$$

$$\text{よって, } t = -\frac{3}{5} \text{ から, } \vec{OQ} = \frac{8}{5}\vec{a} - \frac{3}{5}\vec{b}$$

18 H は直線 AB 上にあるから

$$\vec{OH} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b} \text{ とおくと}$$

$$\overrightarrow{OH}=(4+2t, 2-2t), \overrightarrow{AB}=(2, -2) \text{ で}$$

$$\overrightarrow{AB} \perp \overrightarrow{OH} \text{ より, } \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{OH}=0$$

$$2(4+2t)-2(2-2t)=0 \text{ から, } t=-\frac{1}{2}$$

$$\text{よって, } \overrightarrow{OH}=\frac{3}{2}\vec{a}-\frac{1}{2}\vec{b}$$

- 19 $(x-4)^2+(y-2)^2=a^2(a>0)$ より, 円 C の中心は $C(4, 2)$, 半径は a である。
 $\overrightarrow{CP}=(a\cos\theta, a\sin\theta)$ とおくことができる。
 $\overrightarrow{OP}=\overrightarrow{OC}+\overrightarrow{CP}=(4+a\cos\theta, 2+a\sin\theta)$
 $Q(x, y)$ とおくと, $\overrightarrow{OQ}=2\overrightarrow{OP}+3\overrightarrow{OA}$ より,
 $x=20+2a\cos\theta, y=10-3a+2a\sin\theta$
 これから, $(x-20)^2+(y-(10-3a))^2=(2a)^2$
 よって, 点 Q は 中心 $(20, 10-3a)$, 半径 $2a$ の円の周上にある。

第 3 講座 空間ベクトル

[p.8]

- 1 $AB=\sqrt{(4-1)^2+(7-4)^2+(-7+1)^2}=3\sqrt{6}$
 2 $P\left(\frac{2\cdot(-2)+3\cdot 2}{3+2}, \frac{2\cdot 1+3\cdot 5}{3+2}, \frac{2\cdot 5+3\cdot(-3)}{3+2}\right)$
 より, $P\left(\frac{2}{5}, \frac{17}{5}, \frac{1}{5}\right)$
 $Q\left(\frac{-2\cdot(-2)+3\cdot 2}{3-2}, \frac{-2\cdot 1+3\cdot 5}{3-2}, \frac{-2\cdot 5+3\cdot(-3)}{3-2}\right)$
 より, $Q(10, 13, -19)$

- 3 A, B, ... などの位置ベクトルを \vec{a}, \vec{b}, \dots のように表す。

$$(1) \overrightarrow{MQ}=\frac{\vec{b}+\vec{c}}{2}$$

$$-\frac{\vec{a}+\vec{b}}{2}=\frac{\vec{c}-\vec{a}}{2}$$

$$\text{また, } \overrightarrow{PN}=\frac{\vec{c}+\vec{d}}{2}-\frac{\vec{a}+\vec{d}}{2}=\frac{\vec{c}-\vec{a}}{2}$$

$\overrightarrow{MQ}=\overrightarrow{PN}$ より, $MQ=PN, MQ\parallel PN$
 よって, 四角形 MQNP は平行四辺形

- (2) MN, PQ, RS の中点を G_1, G_2, G_3 とし, その位置ベクトルを $\vec{g}_1, \vec{g}_2, \vec{g}_3$ とすると

$$\vec{g}_1=\frac{\vec{m}+\vec{n}}{2}=\frac{1}{4}(\vec{a}+\vec{b}+\vec{c}+\vec{d})$$

$$\vec{g}_2=\frac{\vec{p}+\vec{q}}{2}=\frac{1}{4}(\vec{a}+\vec{d}+\vec{b}+\vec{c})$$

$$\vec{g}_3=\frac{\vec{r}+\vec{s}}{2}=\frac{1}{4}(\vec{a}+\vec{c}+\vec{b}+\vec{d})$$

位置ベクトルが一致することから, G_1, G_2, G_3 は同じ点である。この点を G とし, MN, PQ, RS は 1 点 G で交わる。

- 4 $\overrightarrow{AB}=(5-1, 1-(-1), -1-2)=(4, 2, -3)$

- 5 (1) $2\vec{a}-\vec{b}=(3, -6, 5)$
 $|2\vec{a}-\vec{b}|=\sqrt{3^2+(-6)^2+5^2}=\sqrt{70}$
 (2) $|\vec{a}|=\sqrt{1^2+(-3)^2+4^2}=\sqrt{26}$

\vec{a} と同じ向きの単位ベクトルは

$$\left(\frac{1}{\sqrt{26}}, -\frac{3}{\sqrt{26}}, \frac{4}{\sqrt{26}}\right)$$

- 6 $\vec{a} \cdot \vec{b}=1\cdot 1+1\cdot(-2)+2\cdot(-1)=-3$

[p.9]

- 7 (1) $AB=BC=CA=\sqrt{6}$ より, 三角形 ABC は, 1 辺 $\sqrt{6}$ の正三角形

- (2) $P(x, y, 0)$ とおくと
 $AP^2=(x-1)^2+(y-1)^2+4^2$
 $BP^2=(x-2)^2+(y-2)^2+2^2$
 $CP^2=(x-3)^2+y^2+3^2$
 $AP^2=BP^2$ から, $x+y=-3$ ①
 $BP^2=CP^2$ から, $x-2y=3$ ②
 ①, ②から, $x=-1, y=-2$
 よって, $(-1, -2, 0)$

- 8 $\left(0, \frac{12}{11}, \frac{20}{11}\right)$

- 9 (1) $A_1(2, -1, -5), A_2(-2, -1, 5)$

- (2) $G\left(\frac{4-2+4}{3}, \frac{5+4+0}{3}, \frac{1+2+3}{3}\right)$
 より, $G(2, 3, 2)$

- (3) $C(x, y, z)$ とすると

$$\frac{3\cdot 2+x}{1+3}=3, \frac{3\cdot 1+y}{1+3}=3, \frac{3\cdot(-4)+z}{1+3}=-1$$

$$\text{より, } x=6, y=9, z=16$$

よって, $C(6, 9, 16)$

- (4) $P(x, y, z)$ とおくと

$$AP^2=(x-2)^2+(y-2)^2+(z-1)^2$$

$$BP^2=(x-1)^2+(y-3)^2+(z+1)^2$$

$$CP^2=(x-1)^2+(y-1)^2+(z+1)^2$$

$$AP^2=BP^2 \text{ より, } x-y+2z+1=0 \text{①}$$

$$BP^2=CP^2 \text{ より, } y=2 \text{②}$$

$$\text{①, ②から, } x=-2z+1$$

$$P(-2z+1, 2, z) \text{ となるから}$$

$$OP^2=(-2z+1)^2+4+z^2=5\left(z-\frac{2}{5}\right)^2+\frac{21}{5}$$

$z=\frac{2}{5}$ のとき, OP は最小となる。

$$\text{よって, } P\left(\frac{1}{5}, 2, \frac{2}{5}\right)$$

- 10 x 軸に関して B と対称な点を B' とすると $B'(5, -12, -16)$ であり, $AP+PB$ が最小となるのは, A, P, B' が一直線上にあるときで $\overrightarrow{AB'}=k\overrightarrow{AP}$ なる k が存在すればよい。

$P(x, 0, 0)$ とおくと

$$(-1, -18, -24)=k(x-6, -6, -8) \text{ より}$$

$$k=3, x=\frac{17}{3} \text{ よって, } P\left(\frac{17}{3}, 0, 0\right)$$

- 11 $AD^2=(x-2)^2+(y-2)^2+z^2$ ①

$$BD^2=(x-2)^2+y^2+(z+2)^2$$
②

$$CD^2=x^2+(y-2)^2+(z+2)^2$$
③

$$\text{①=②より, } y=-z \quad \text{②=③より, } x=y$$

これから, $x=y=-z$ ④